《コラム》
J-POP 歌詞の中のカタカナ～AKB48～

渡　辺　さゆり

1、カタカナ表記

日本語を表記する際には漢字・ひらがな・カタカナなどの文字種が使われ、カタカナは主に外来語や外国の地名・人名を表記します。新聞を例に挙げると外国語の地名・人名、外来語および和製のカタカナ語、擬声語、擬態語（特別のニュアンスを出したいとき）、感動を表す語、俗語的なもの、動物・植物の名称で常用漢字で書けないもの、元素名、化合物名など常用漢字で書けないもの、特別の意味やニュアンスを出す場合、平仮名が続いて読みにくい場合などにカタカナは使用されています[i]。新聞は毎日発行され、提供される話題も政治・経済・社会・スポーツなどあらゆるジャンルに亘り、また年代や性別を問わず読まれる媒体であることから、新聞におけるこれらのカタカナ表記はカタカナで日本語を表記する際の「標準的表記」と考えていいでしょう。ところが読者対象を若者に絞った雑誌に注目してみると、漢字やひらがなで表記される語をあえてカタカナで表記する「非標準的表記」としてカタカナ表記が多用されており、カタカナを使用することによって一般的な意味・用法と若者特有の使用法との差別化を図ろうとする、もしくは広く一般に定着している語感を弱化させ、若者特有の感覚・感性・感情などを表現しようとする書き手の意識が認められる[ii]傾向があるとされています。

また少女マンガの登場人物のセリフに目を向けると、若者雑誌同様、慣例的に漢字またはひらがなで表記される語がカタカナで表記される例が名詞、動詞、

---

i　読売新聞社（2011）『読売新聞用字用語の手引き第３版』（2011、中央公論新社）参照

ii　則松智子・堀尾香代子（2006）「若者雑誌における常用漢字のカタカナ表記化 - 意味分析の観点から - 」（2006、『北九州市立大学文学部紀要』72、北九州市立大学）参照

形容詞、副詞、感動詞、助詞、助動詞とあらゆる品詞にわたって頻出しており、「学校」を「ガッコ」、「普通」を「フツー」、「全然」を「ゼンゼン」などのような表記が散見されます。漢字が持つ「むずかしい」「大人っぽい」というイメージやひらがなが持つ「子どもっぽい」「やさしい」というイメージを避けたいという動機に支えられ、カタカナが持つ「鋭さ」のイメージによって新しい世界を切り裂いていこうとする世界観があるためとされています[iii]。

このように、特に若者を対象とする雑誌・マンガでは、概してカタカナで表記する語が多用されていますが、では若者がよく聞くと思われる J–POP の歌詞はどうでしょうか？

2、J-POP の歌詞の中のカタカナ～AKB48

J–POP の歌詞の中でカタカナはどのような場合に使用されるのか…？一概に J–POP といってもバリエーションは豊富ですが、今回は昨今、若者に人気の女性グループ AKB48について調べてみました。AKB48が歌う楽曲はすべてプロデューサーの秋元康氏が作詞することでも有名です。作詞家が一人であることから歌詞のカタカナ表記についても特徴的なルールが確認しやすいのではないかとも思われます。

対象としたのはベストアルバム「ここにいたこと」収録の16曲で、すべて CD 付属の歌詞カードにおける表記をもとに調査を行いました。（＜表１＞参照）。

＜表１＞AKB48「ここにいたこと」収録曲　　作詞：秋元康

少女たちよ	イイカゲンのススメ
Overtake	High school days
僕にできること	チーム B 推し
恋愛サーカス	チャンスの順番
風の行方	Beginner
わがままコレクション	ポニーテールとシュシュ
人魚のバカンス	ヘビーローテーション
君と僕の関係	ここにいたこと

iii 秋月高太郎『ありえない日本語』（2005、筑摩書房）

3、AKB48「ここにいたこと」のカタカナ表記について

「ここにいたこと」収録の16曲中、カタカナ表記された語数は、延べ語数175語、異なり語数83語[iv] でした。この異なり語数83語についてさらに外来語グループ、和語・漢語グループ、オノマトペグループ、固有名詞グループに分類しました。オノマトペは擬音語・擬声語・擬態語などの総称で「ガンガン鳴る」の「ガンガン」や「キラキラひかる」の「キラキラ」のことです。「ここにいたこと」では「オーマイガッ」にように外国語音をカタカナで表記する言葉もありましたが、今回はこれを「擬声」と考えオノマトペに含めました。「ガンガン」や「キラキラ」は活用することばを形容する副詞としての役割を持ち、語種としては和語、「オーマイガッ」は外国語出自ですので外来語になりますが、「ここにいたこと」ではこのようなオノマトペが特徴的に使われていたので、和語や外来語とは分類を別にしてデータを表記しました。結果は＜表２＞の通りです。

＜表２＞

AKB「ここにいたこと」　カタカナ語

外来語グループ

ｽﾃｰｼﾞ	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	ﾁｬﾝｽ	ﾒﾝﾊﾞｰ	ﾁｰﾑ	ﾒｯｾｰｼﾞ	ﾊﾞﾄﾝ	ﾋﾟｴﾛ
ｽﾘﾙ	ﾒｲｸ	ｷｽ	ﾐｽ	ｼｮｰﾀｲﾑ	ｻｰｶｽ	ﾃﾝﾄ	ﾅｲﾌ
ﾌﾞﾗﾝｺ	ﾎﾟﾆｰﾃｰﾙ	ｼｭｼｭ	ﾗｲｵﾝ	ｽｳｪｯﾄｽｰﾂ	ｻｰﾌｧｰ	ｷｬｯﾌﾟ	ﾒｰﾙ
ﾊｰﾄ	ｺﾚｸｼｮﾝ	ﾛｰﾌﾟ	ﾘｸｴｽﾄ	ﾊﾝﾓｯｸ	ｷﾞﾀｰ	ﾗｲﾑ	ﾌﾟｰﾙ
ﾊﾞｶﾝｽ	ｲﾒｼﾞﾈｰｼｮﾝ	ｱﾄﾞﾚｽ	ｽﾄﾛﾍﾞﾘｰ	ﾍﾟｰﾊﾟｰﾊﾞｯｸｽ	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ	ｽｺｰﾙ	ﾊﾟﾊﾟﾗｯﾁ
ﾊﾞﾗﾀﾞｲｽ	ｶﾌｪﾃﾗｽ	ｼﾁｭｴｰｼｮﾝ	ﾉｰﾄ	ﾊﾟﾝｸ	ｶﾚﾝﾀﾞｰ	ﾊﾝｶﾁ	ﾓﾉﾛｰｸﾞ
ﾎｰｽ	ﾀﾞﾝｽ	ﾊﾝﾃﾝｼｮﾝ	ﾎﾟｯﾌﾟｺｰﾝ	ﾍﾋﾞｰﾛｰﾃｰｼｮﾝ	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ	ﾍﾞｰｽ	ｺﾞｰﾙ
ﾄﾗｳﾏ	ﾁｬﾚﾝｼﾞ	ﾘｽｸ	ﾍﾟｰｼﾞ	ｼｬﾂ	ﾌﾟﾘｰｽﾞ		

オノマトペグループ

ｷﾗｷﾗ	ｷﾞﾘｷﾞﾘ
ｸﾞﾀﾞｸﾞﾀﾞ	ﾊﾗﾊﾗ
ｶﾞﾝｶﾞﾝ	ｽｰｽｰ
ﾄﾞﾝﾄﾞﾝ	ｵｰﾏｲｶﾞｯ
ｼﾞｬﾝｼﾞｬﾝ	ﾋﾟﾝ
ﾀﾞﾝﾀﾞﾝ	ｲｴｰｲ
ﾋﾞﾝﾋﾞﾝ	

和語・漢語グループ

ﾀﾞﾒ
ｲｲｶｹﾞﾝ
ｶﾌﾞﾄﾑｼ
ﾋﾞﾘ
ｱﾚ
ｺﾚ

固有名詞

ｲﾝﾃﾙ
ﾁｶﾘﾅ

AKB48「ここにいたこと」におけるカタカナ表記の言葉83語の内訳は、外来語グループ62語、和語・漢語グループ６語、オノマトペグループ13語、固有名詞２語でした。ただし、和語・漢語グループを見てみると、漢語をカタカナで表記する例はありませんでした。

---

iv カタカナ表記されたルビは表記形態が異なることから、今回は調査対象外とした。

外来語や、擬音語・擬声語などのオノマトペをカタカナで表記するのは所謂「標準的表記」です。「ここにいたこと」ではカタカナで表記した語のうち「標準的表記」が全体の約89％の割合を占めており、また＜表２＞を参照しカタカナで表記された語を通観すると日本語として日常会話の中に定着した語が多いことがわかります。逆に若者雑誌や漫画では漢字で表記できるにも関わらずカタカナで表記する語が多いという特徴がありましたが、AKB48「ここにいたこと」ではこのような「非標準的表記」の割合が低く、若者雑誌や漫画のカタカナ使用状況と異なる表記傾向があることがわかります。つまり「一般的な意味・用法と若者特有の使用法との差別化を図る」、もしくは「広く一般に定着している語感を弱化させ、若者特有の感覚・感性・感情などを表現する」という書き手の意識が認められず、またカタカナが持つ「鋭さ」のイメージによって新しい世界を切り裂いていこうとする世界観も感じられないという特徴が認められます。

４、カタカナの役割～「意味」と「音」

前述した通りAKB48楽曲の作詞はすべて秋元康氏が担当しています。秋元康氏は1958年生まれの55才。かつてはおニャン子クラブに楽曲を提供していたことでも有名です。またAKB48やおニャン子こクラブだけではなく多くの歌手に詩を提供しており、たとえば小泉今日子「なんてったってアイドル」、とんねるず「ガラガラヘビがやってくる」、さらに美空ひばり「川の流れのように」も秋元康氏が作詞を担当しています。

さてAKB48「ここにいたこと」収録の16曲を通して秋元康氏作詞の楽曲を考えてみると、日本語の「意味」を重視し、「意味」を含まない「音」としての言葉を多用しない傾向があることがわかります。どの楽曲の歌詞を見ても奇をてらう言葉―たとえば造語―を用いることなく、子供からお年寄りまで誰が聞いてもわかりやすい日常生活に定着した言葉を多く選んだ歌詞作りがなされているようです。ここにAKB48の楽曲が多くの人に支持され、またカラオケなどでよく歌われる理由があると思われます。

ところで、このような日本語の「意味」を重視した曲作りは、もしAKB48が今後、世界進出を目指すとすると（余計なお世話かもしれませんが）、メリットなのでしょうか、それともデメリットなのでしょうか。歌詞の中に造語が少な

く、歌詞の多くが日常生活に溶け込んだ言葉であるということは、外国語に翻訳しやすいとも考えられます。日本語がわからない人に言葉の「意味」を伝えるとき、翻訳しやすいということはメリットといえるでしょう。しかし昨今、若者に人気のきゃりーぱみゅぱみゅやPerfumeなどが海外でコンサートを行い良い評価を得ていると聞きます。が、彼女たちが歌う楽曲は、音楽を聞いた時の「音」の心地よさや「音」の響きのおもしろさが特徴的であるケースが多いようです。日本語の「意味」がわからない海外の人たちにも「音」による効果が視覚的なパフォーマンスとともに心に届く力があるように感じます。

さて、AKB48の今後はいかに？そのパフォーマンスとともに、歌詞の内容にも注目していきたいところです。